

Casting Our Eyes
on the Future

視線はまっすぐ未来へ

株式会社 **アーレスティ**

証券コード：5852

第**98**期 中間
株主通信

2018年4月1日▶2018年9月30日



株主の皆様へ

第98期第2四半期の業績と今後の成長に向けた施策、当社の考えるガバナンスについて

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループの現状と今後の展望についてお答えします。なお、第98期第2四半期の業績については3ページ以降をご覧ください。

今後とも、皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

代表取締役社長

2018年12月

高橋 新



Q1 第98期第2四半期の業績と今後の見通しについてお聞かせください。

メキシコ・インド・中国の受注量の増加等により増収となるものの、収益面では燃料費の上昇、米国工場の改善プロジェクトの収益への寄与の遅れ、減価償却費の増加等により減益となりました。生産性改善などを通じた原価低減等を真摯に進めてまいります。

大変残念ながら上期の業績は不本意な結果となりました。前年同期に引き続き国内は大型ダイカスト製品の需要は旺盛でしたが、燃料費の上昇や値引き、労務費などが影響いたしました。海外では、

メキシコ・インド・中国が増収となりました。収益面では、アジアセグメントの中国の収益力がやや鈍化したもののインドが引き続き増益となりました。北米では、米国工場の改善プロジェクトを進めており改善の兆しがありますが、収益への寄与にはもう少し時間を要します。また、海外セグメントにおいては一時的な減価償却費増加の影響も出ております。

上期の状況から通期予測の修正をいたしました。市場の状況は不透明感がありますが、生産性の改善などを通じた原価低減、米国工場の改善プロジェクトを真摯に進めてまいります。

Q2 変化する自動車業界で、今後の成長に向けた施策をお聞かせください。

電動化に用いられる部品の受注獲得、アルミダイカストによる車体部品の軽量化での貢献を柱に受注拡大、技術開発を進めております。工場を増築し、電動化部品などへの生産対応、増産に向けた準備を進めております。

中国と米国の貿易戦争、NAFTAからUSMCAへの変化、英国のEU離脱、TPPなど目まぐるしく変化する世界情勢の中で、市場や需要変化の予測が大変難しくなっています。足元では、変化する市場に対応しているお客様のニーズを敏感に察知した営業活動を進めております。一方で、100年に一度と言われる自動車の大変革が進んでいます。CASE（コネクティッド、自動運転、シェア、エレクトリック）の中でも特に「E」は、エンジンなど内燃機関に依存する当社の事業への影響が甚大です。電動化に用いられる部品の受注獲得、アルミダイカストによる車体部品の軽量化での貢献を柱に受注拡大、技術開発を進めております。

EV（燃料電池も含む電気自動車）も徐々に増加しておりますが、当面は電動化（レンジエクステンダー、PHEV、HV）が主流となっていくと思われれます。これらの市場での受注獲得も積極的に進めております。

今期は、電動化部品などの生産対応のために山形工場の増築に着手いたしました。また、需要の増加が見込まれる中国では、合肥工場の鋳造・加工建屋の拡張が完了し増産に向けた準備を進めております。

Q3 企業価値の向上という観点で、当社の考えるガバナンスについてお聞かせください。

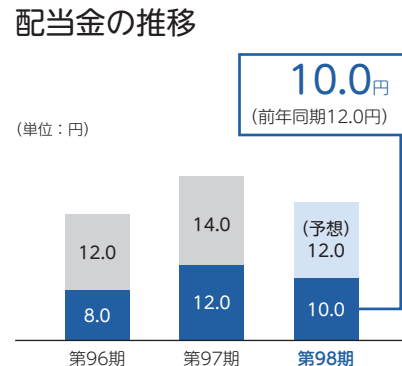
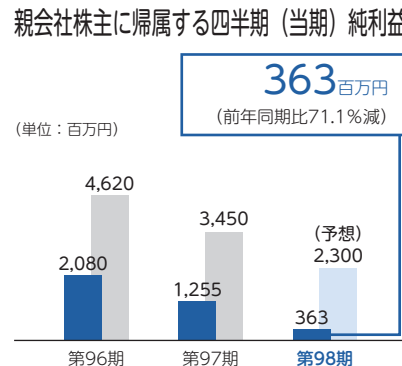
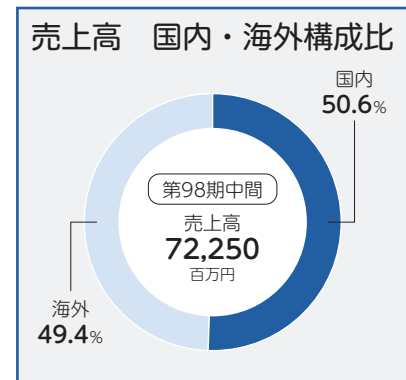
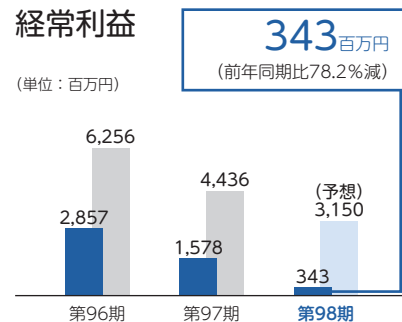
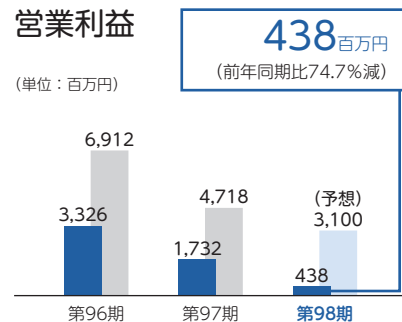
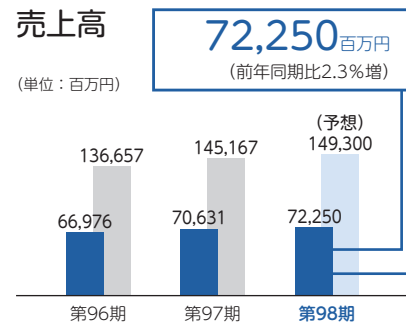
現在取締役11名中4名が社外取締役です。それぞれの経験、能力を活かした多面的視点を取り入れることのできるガバナンス体制となっております。また、今年度より取り入れた株式報酬制度により、株主の皆様と視点を共有すると共に、業績と報酬の連動性を高めております。

当社では、取締役会の監督機能を高める一方、業務執行取締役等への権限移譲を行い経営効率の向上、迅速な経営判断を行う体制を整備するため、2015年より監査等委員会設置会社へ移行し社外取締役を増員してまいりました。現在では、取締役11名中、社外取締役4名という体制となっております。社外取締役は、自動車部品産業、アルミ産業、経済学者、税理士という方々であり、当社がグローバルなものづくり企業として継続的に事業拡大・発展していく上で重要な視点を取り入れることのできるガバナンス体制となっております。毎月開催される取締役会においても活発な議論が交わされております。また、執行役員も含めた株式報酬制度を今年度より取り入れ、株主の皆様と視点を共有すると共に業績と報酬の連動性を高めております。

皆様のご理解、ご支援を引き続きお願いいたします。

第2四半期決算ハイライト

連結決算ハイライト



第2四半期決算のポイント

売上高722億円（前年同期比2.3%増）、営業利益4億円（前年同期比74.7%減）

【売上動向】

- 日本、北米においては前年同期と同水準に留まりましたが、アジアでの受注量の増加及びアルミ地金市況上昇の影響により増収となりました。

【利益動向】

- 燃料価格の上昇、アメリカ工場の収益改善の遅れ、減価償却費の増加等により減益となりました。

主要連結財務データ

	第95期 2016年3月	第96期 2017年3月	第97期 2018年3月	第98期 2019年3月第2四半期
売上高 [百万円]	144,451	136,657	145,167	72,250
営業利益 [百万円]	5,385	6,912	4,718	438
経常利益 [百万円]	4,077	6,256	4,436	343
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益 [百万円]	1,963	4,620	3,450	363
1株当たり四半期（当期）純利益 [円]	75.97	178.77	133.40	14.02
総資産 [百万円]	139,496	135,044	137,751	137,095
純資産 [百万円]	59,262	62,053	65,439	64,775
1株当たり純資産 [円]	2,287.83	2,394.58	2,522.55	2,492.31
年間配当・中間配当 [円]	14.0	20.0	26.0	10.0

(参考) EBITDA 2017年3月期 20,693百万円、2018年3月期 19,617百万円、2019年3月期第2四半期 8,848百万円 (※) EBITDA=営業利益+減価償却費

(注) 2019年3月期の期首より、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を適用したため、2018年3月期については、遡及適用後の数値を記載しております。

■ 通期の見通し

【売上】 連結売上高予想 1,493億円

- ダイカスト事業は、アメリカ、中国での自動車販売・生産減速の影響はあるものの、連結では増収を見込んでいます。
- 為替レートは、107円/米ドル、16.0円/元、1.6円/インドルピーを前提としております。

【利益】 連結営業利益予想 31億円

- 燃料価格の上昇、アメリカの収益改善の遅れ、減価償却費の増加等により減益の見込みです。

■ (ご参考) 中期経営方針

10年ビジョン

信頼を究めよう 2025

ありたい姿

- お客様からの信頼No.1
- グローバルで車の軽量化に役立つ
- 売上高2000億円+α

1618中期経営方針

大型高難易度製品の顧客評価No.1を実現する

ものづくりを究める

生きいきと活動する会社を築く

収益力を高める

リスク管理を徹底する

当社IRサイトで第2四半期決算説明資料を掲載しています

機関投資家向けに開示している決算説明資料、参考資料などを掲載しております。本冊子と併せてご参照ください。



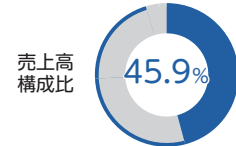
もしくは右記QRコードよりご確認ください。



事業別の概況

ダイカスト事業

日本

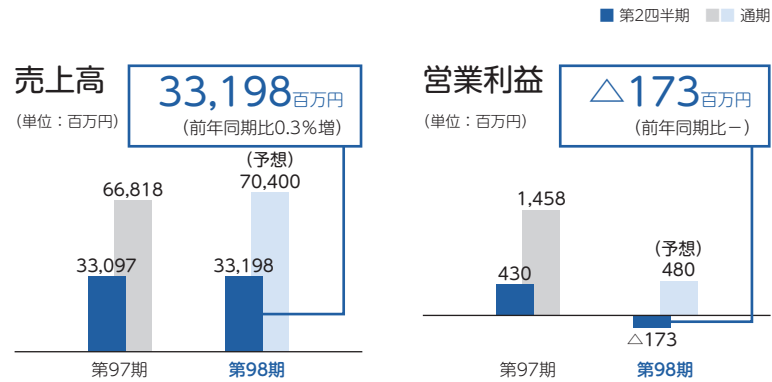


売上高

- ・北米での乗用車需要の減少により、主要顧客の北米向け製品の一部が減少し受注量は減少
- ・売上高はアルミ地金市況の上昇等により増加

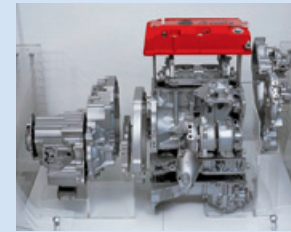
営業利益

- ・受注量の減少、コストダウンの影響により減益
- ・燃料費等の増加も収益を圧迫



ダイカスト事業

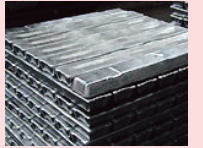
80年にわたるたゆまぬ研究開発で育んできた高い技術により、自動車のエンジン、トランスミッション、電動化部品など様々なダイカスト製品を製造・販売しています。



ダイカスト製品の特徴は、生産性の高さと寸法精度に優れており鑄肌が美しいことです。その特徴を活かし、複雑な形状で大量生産が必要な自動車部品などに多く用いられています。

アルミニウム事業

缶、サッシ、自動車スクラップなど多様な原料をもとに、厳しい管理のもと、品質の優れたアルミニウム合金地金を製造・販売しています。



完成品事業

フリーアクセスフロア（配線・配管を床下に収める2重床システム）のアルミニウムダイカスト製フロアパネルを製造・販売しています。



(自社製品名「モバフロア」)

北米

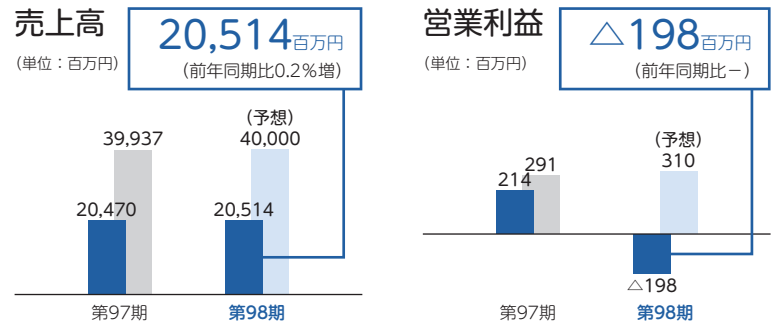


売上高

- ・米国は小型トラックやSUV向け製品の受注は好調だが一部製品生産終了の影響等により受注量が減少
- ・メキシコでは新規部品の量産本格化により受注量が増加
- ・アルミ地金市況上昇も加わり、セグメントとしては増収

営業利益

- ・米国は受注減となるなかで生産性改善プロジェクトの収益への寄与に遅れ
- ・一時的な減価償却費の増加等により減益



アルミニウム事業

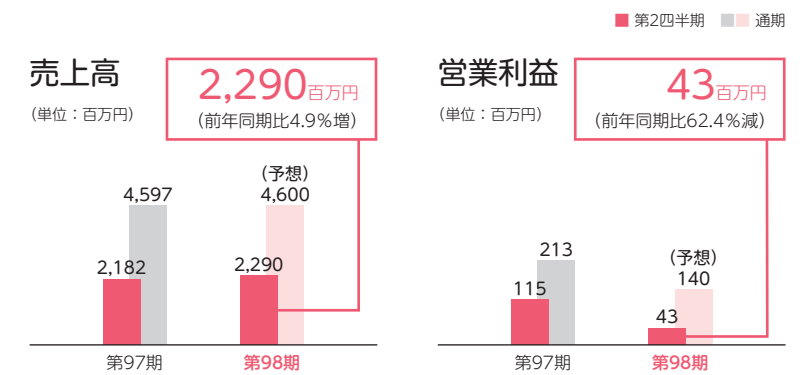


売上高

- ・アルミ地金市況変動の影響を受け増収

営業利益

- ・加工費の原価低減活動を推進するものの、原材料の価格上昇等により減益



アジア

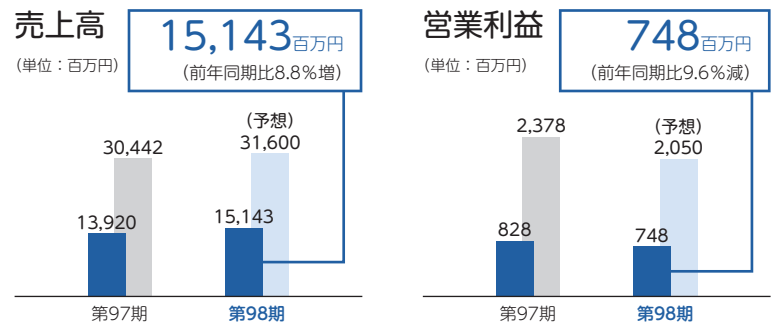


売上高

- ・中国は主要顧客のSUV等の売上好調により増収
- ・インドも自動車市場の拡大により受注増加
- ・アルミ地金市況上昇も加わり、アジアセグメントは増収

営業利益

- ・中国のコストダウン影響及び一時的な減価償却費の増加等により減益



完成品事業

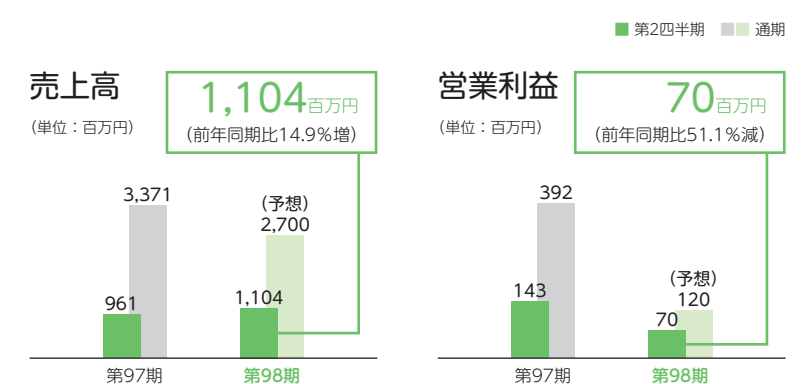


売上高

- ・クリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注が増加し増収

営業利益

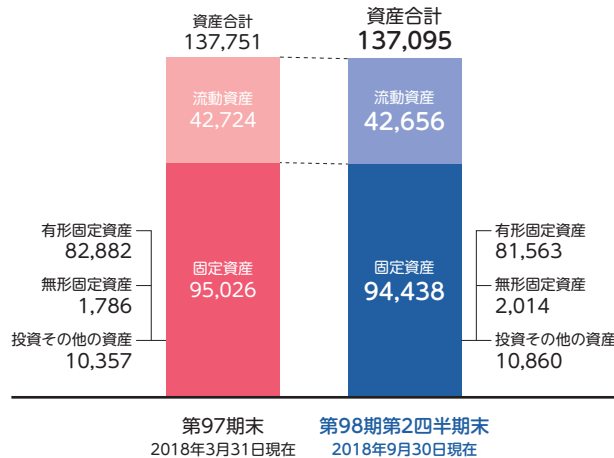
- ・受注競争等により減益



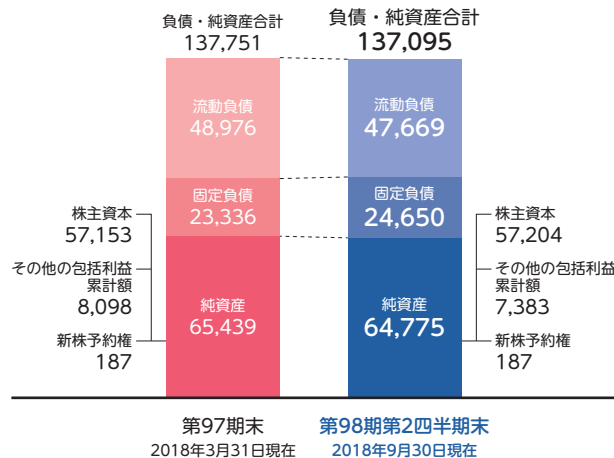
連結財務諸表

四半期連結貸借対照表の概要

資産の部 (単位: 百万円)



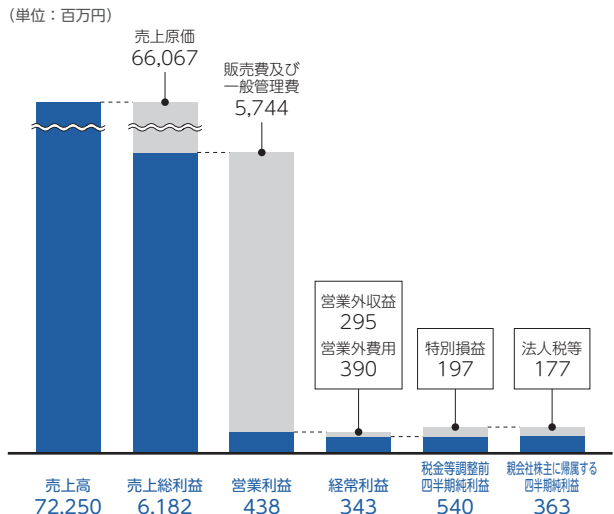
負債・純資産の部 (単位: 百万円)



(注) 2019年3月期の期首より、『税効果会計に係る会計基準』の一部改正等を適用したため、2018年3月期については、遡及適用後の数値を記載しております。

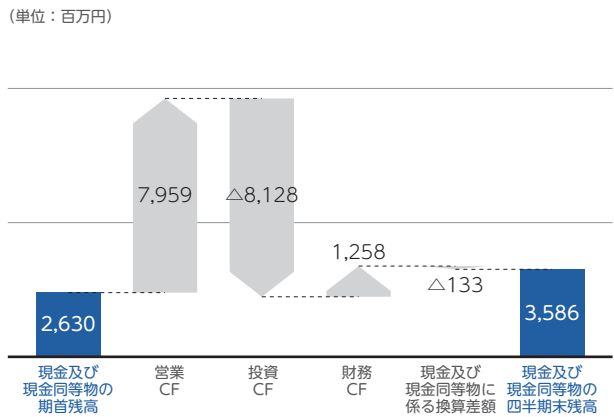
四半期連結損益計算書の概要

第98期第2四半期 (累計) 2018年4月1日から2018年9月30日まで



四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要

第98期第2四半期 (累計) 2018年4月1日から2018年9月30日まで

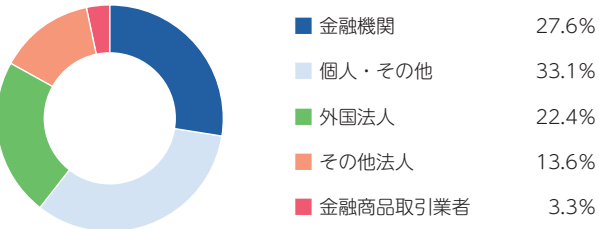


株式の状況

株式数及び株主数 (2018年9月30日現在)

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	26,076,717株
株主数	5,646名

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel 0120-232-711 (平日9:00-17:00) 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.ahresty.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

大株主 (上位10名) (2018年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	1,232	4.7
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	1,188	4.5
高橋新	931	3.5
RBC ISB S/A DUB NON RESIDENT/TREATY RATE UCITS-CLIENTS ACCOUNT (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ)	750	2.8
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口9)	686	2.6
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/ACCT BP2SDUBLIN CLIENTS-AIFM (常任代理人 香港上海銀行)	676	2.6
日本軽金属(株)	657	2.5
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ)	654	2.5
アーレスティ取引先持株会	606	2.3
スズキ(株)	565	2.1

(注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は自己株式(161,982株)を控除して計算しております。

ホームページのご案内

当社ホームページ「株主・投資家情報」では、株主の皆様へ最新情報をお届けしております。併せてご覧ください。



トップページ

「株主・投資家情報」ページ

<https://www.ahresty.co.jp>

アーレスティ山形工場を増築

—加工棟と溶解棟を新築—

エンジン部品の新規受注に加え、電動化部品の受注増に対応し、2018年7月に着工。
ダイカストマシン及び加工機等を増設し、電動化部品の生産体制を強化します。



地鎮祭の様子



【増築計画概要】

工場面積：建屋 13,614㎡（2018年3月現在）

増築（面積）：第一加工棟 新築（1,250㎡）、
溶解・熱処理棟 新築（650㎡）

着工：2018年7月30日

竣工：第一加工棟2019年1月（予定）、溶解棟2019年9月（予定）

増設：ダイカストマシン 2台、加工機 22台、溶解炉・熱処理炉 各1台

※増築部分赤枠表示



Corporate Information

■ 会社概要

(2018年9月30日現在)

商号	株式会社 アーレスティ	
設立	1943年11月2日	
資本金	6,964百万円	
従業員数 (単独)	952名	
企業集団の従業員の状況	従業員数	
	ダイカスト事業日本	2,245名
	ダイカスト事業北米	2,687名
	ダイカスト事業アジア	2,136名
	アルミニウム事業	54名
	完成品事業	28名
	全社 (共通)	85名
	計	7,235名

■ 取締役

(2018年9月30日現在)

代表取締役社長	高橋 新
取締役	伊藤 純二
取締役	高橋 新一
取締役	蒲生 新市
取締役	金田 尚之
取締役	野中 賢一
取締役 (監査等委員)	石丸 博
社外取締役 (監査等委員)	早乙女 唯夫
社外取締役 (監査等委員)	志藤 昭彦
社外取締役 (監査等委員)	塩澤 修平
社外取締役 (監査等委員)	早乙女 雅人



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。